

報道関係者 各位

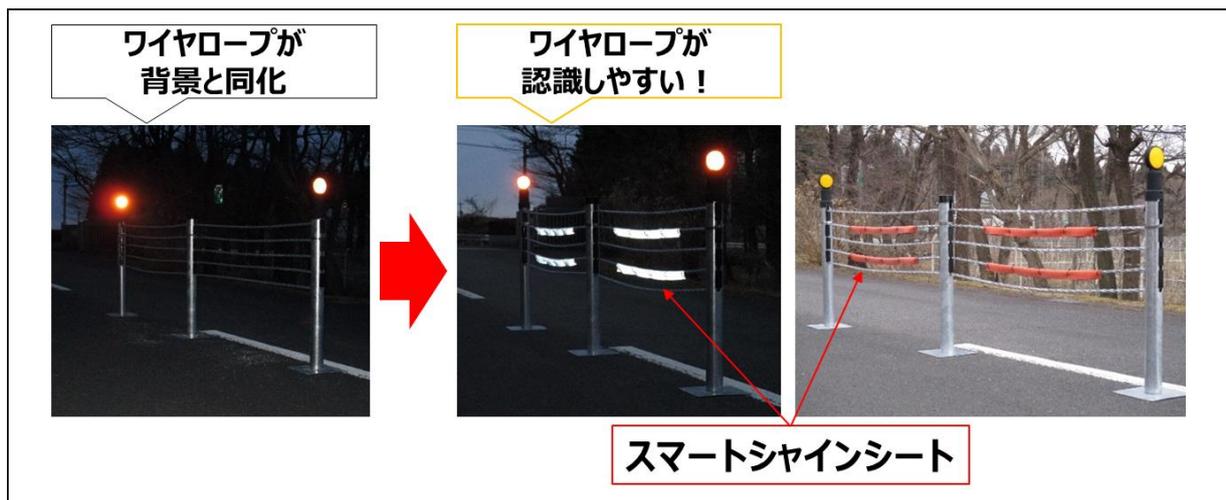
2020年4月1日
株式会社アークノハラ

暫定二車線の高速道路に設置が進むワイヤロープ式防護柵 ワイヤ部を見やすくする反射材「スマートシャインシート」を新発売 ～接触事故の低減、更なる安全を目指して～

4月6日から始まる春の全国交通安全運動。

「安心」「安全」「快適」な街づくりを合い言葉に、道路標識や視線誘導標等を手掛ける株式会社アークノハラ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：岡本 力、以下：アークノハラ）は、国の主導により暫定二車線の高速道路に設置が進む「ワイヤロープ式防護柵」（道路の中央部分に設置されるケーブル型防護柵のひとつ）のワイヤロープ部を目立たせる、ワイヤ取付型反射材『スマートシャインシート (Smart Shine Sheet)』（以下、「本製品」とします）を4月1日より発売いたします。

ワイヤロープ部に本製品を取り付けることにより、車両などのヘッドライトによって当該部分が反射しドライバーからの視認性が向上します。防護柵に接触することない安全な走行を誘導し、急増する防護柵（ワイヤロープ部）への車両接触事故を防止し道路の安全性向上に寄与します。



■設置イメージ_(左側)薄暮時にワイヤ部が背景と同化し分かりづらい様子_(中央)薄暮時に本製品を設置、(右)昼間に本製品を設置

中央分離帯のない暫定二車線の高速道路では、正面衝突事故が起こりやすく、死亡事故など重大な事故につながりやすいことから、政府は2018年よりラバーポールからワイヤロープ式防護柵への切り替え設置を本格化させていますⁱ。2018年度末までに、対向車線への飛び出し事故の発生件数は大幅に減少するなど高い防止効果を発揮していますⁱⁱ。

一方で、ワイヤロープ部がメッキ色のためドライバーからは周囲の背景と同化して分かりづらいことなどが原因で、ワイヤロープへの車両接触事故が発生しており、ドライバーの注意を喚起することで、接触を防止する対策が喫緊に必要とされています。

アークノハラは、上記の課題を解決し、今後も整備が続くワイヤロープ式防護柵のもつ安全対策機能を阻害せず、事故発生時も迅速に復旧できるよう、夜間でも全面が光を反射し見やすく、ワイヤロープに巻きつけ可能な柔らかな素材での製品開発に至りました。本製品は、日中でもドライバーから見やすく、年々増加する高齢ドライバーの認知能力と安全運転をサポートする一面もあります。

私たちは、本製品を普及させ、道路管理者とともに、防護柵への車両接触事故の更なる削減により、道路の安全に貢献してまいります。

道路の安全性を向上させる、ワイヤロープ式防護柵用反射シート「スマートシャインシート」の特長

本製品は、柔軟性と耐候性の高いゴムを使用し、全面に再帰性反射材(ガラスビーズ)を塗布した反射シートです(図面等の詳細は別紙参照)。

車両が走行しやすく快適で安心安全な道路環境を実現するため、薄暮時・夜間・悪天候下におけるワイヤロープへの衝突事故防止を促進し、道路管理者が抱える道路整備に関わる課題を解決します。

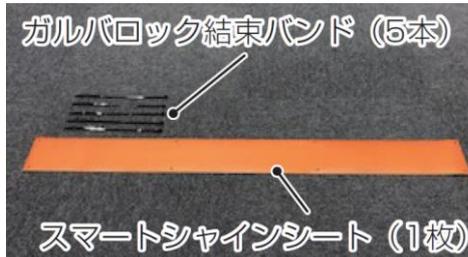
【製品名】スマートシャインシート(Smart Shine Sheet)

【展開色】標準色：オレンジ/グリーン

【発売時期】2020年4月

【製造販売】株式会社アークノハラ

【問合せ先】株式会社アークノハラ 営業戦略部営業推進室
(担当：将基/ショウキ) 電話：03-3357-2442



特長	期待できる効果
柔軟性と耐候性のある素材	<p>①ワイヤロープの衝撃吸収機能を阻害しない</p> <p>シートの素材自体が衝撃緩衝性能に優れており、ワイヤロープの衝撃吸収機能を阻害しない。</p> <p>②二次災害の最小化</p> <p>万が一の車両衝突・接触時も、シートの破片が飛散せず道路の迅速な復旧に寄与する他、車両の損傷やドライバーへの被害を最小限に抑えられる。</p> <p>③寒さに強い</p> <p>寒冷地でも、ワイヤロープに合ったシートの太さ調節が自在にでき取付けが可能。</p>
全面再帰性反射(ガラスビーズ)を塗布	<p>①ワイヤロープが見やすくなる</p> <p>薄暮時や夜間、降雨・積雪・濃霧時の悪天候下でも車のヘッドライトによる全面再帰の反射(光源に対してまっすぐに光を反射)で、ワイヤロープ部が目立つのでドライバーからも見やすい。</p> <p>②長持ち</p> <p>ガラスビーズを塗布しているため汚れにくく、耐久性・耐候性に優れる。</p>
1枚182gと軽量、簡易な構造	<p>①持ち運びも簡単、かさばらない</p> <p>シンプルな構造のため、輸送・保管時、作業時の持ち運びの際もかさばらない。</p> <p>②簡単施工による作業者の安全確保</p> <p>本製品はワイヤロープに巻きつけ結束バンド(ガルバロック)で取り付けるだけの簡単施工。 危険が伴う高速道路上の施工も短時間で終了できる。</p>

<施工手順>ワイヤロープに本製品を巻きつけ、結束バンドで取付けるだけ！！

1. 留める



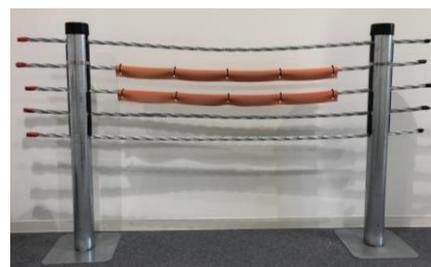
スマートシャインシートの前後の穴位置を合わせ、結束バンドを通し、固定します。

2. 切る



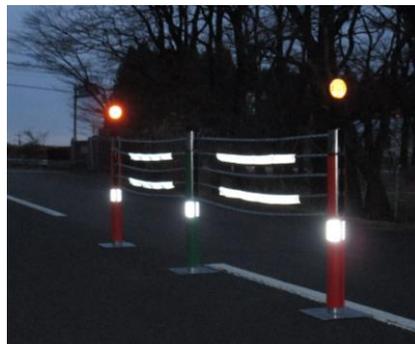
ワイヤロープにシートが密着していることを確認し、結束バンドを切断します。

3. 完成



ヴィカバー (Vicover) 等との併用で、ワイヤロープ式防護柵を一層安全に！

スマートシャインシートは、以下のワイヤロープ式防護柵用の安全対策製品と併用することで、より一層、道路および自動車交通の安全性を高めることが期待できます。



ワイヤロープ式防護柵用ゴム製視線誘導標

対面通行道路などの車線分離用に設置されるワイヤロープ式の防護柵に取り付けられるゴム製の視線誘導標（デリネータ）です。ワイヤロープ式防護柵に車両が衝突しても、デリネータが飛散しない設計で、二次被害を軽減できます。

KD-100（反射タイプ）



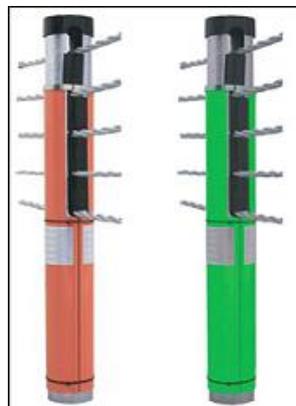
KDL-140 自発光タイプ（同時点滅式）

KDL-40 自発光タイプ（単独点滅式）



ワイヤロープ式防護柵用支柱カバー ヴィカバー (Vicover)

「ワイヤロープ式防護柵」（道路の中央部分に設置されるラバーポールのひとつ）を目立たせ、ドライバーからの視認性を向上させることで、防護柵（中間支柱）と車の接触事故を防止し道路の安全性を向上させる、色つきの支柱カバーです。メッキ色の支柱に後付けでき、ワイヤロープ式防護柵の視認性を高めるとともに、車両衝突時におけるワイヤロープの衝撃緩和機能を損ねません。また、軽量で耐久性・耐候性に優れた材質を使用しているため、設置作業も在庫保管も簡易にできます。



株式会社アークノハラについて

株式会社アークノハラは、「安心」「安全」「快適」な街づくりを合い言葉に、道路標識や視線誘導標、歩行者用観光案内標識などのサイン、ガードレール・遮音壁などの安全施設製品について、設計～製造～施工の一環したネットワークを構築してまいりました。これからも交通事業の発展及び環境整備の拡充と、安心安全な街づくりに貢献してまいります。なお、2018年春より国立大学法人群馬大学と、自動運転車両と道路標識・視線誘導標等との路車間協調に関する共同研究を開始しております。

【会社概要】

株式会社アークノハラ

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：1987(昭和 62)年 8 月 3 日

資本金：5,000 万円

代表取締役社長：岡本 力

<https://arc-nohara.co.jp/>

野原グループについて

2017 年、創立 70 年を迎えた野原グループは、これまで建設業界を中心に建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材、道路交通標識などの販売・施工を通して、事業を拡大するとともに、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら成長してきました。

近年は、「Innovation」・「Digitalization」・「Globalization」をキーワードにユニークな事業の創出を目標に掲げております。プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」や建設情報のデジタル化を目指す新会社「BIMobject Japan 株式会社」、グッドデザイン賞受賞商品のみを販売する国内初のデザインショップ「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」、特別な思いと時間をシェアする場所「レンタルキッチンスペース Patia」、新しい表現を模索する人たちのための、自由な発想に寄り添う壁紙ブランド「Wh0」など、新規事業を展開しています。

【WEB】 <https://www.nohara-inc.co.jp>

【本製品に関する問合せ先】

株式会社アークノハラ

営業戦略部営業推進室(担当：将基/ショウキ)

電話：03-3357-2442

【本リリースに関する問合せ先】

野原ホールディングス株式会社

社長室(担当：齋藤、青木)

電話：03-3357-2231

e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp



ⁱ ワイヤロープ式防護柵は、車両衝突時に支柱だけが倒れ、ワイヤロープは高さを保持し、そのたわみで車両衝突時の衝撃をワイヤロープが受け止め、車両への衝撃を緩和するとともに、反対車線への車両の飛び出し抑止や二次被害減少に寄与する防護柵です。国土交通省発表(2018年6月15日付け)の「暫定二車線の高速道路のワイヤロープ設置方針について」では、暫定二車線の高速道路における正面衝突事故対策としてワイヤロープを土工区間に本格設置すること、ワイヤロープが設置可能な土工区間は全国で約1500kmであることが発表されました。2019年4月1日現在で全国22路線、約180kmへの設置を完了しています。

ⁱⁱ 2019年7月19日開催の「高速道路の正面衝突事故防止対策に関する技術検討委員会(第4回)」では、ワイヤロープ設置以前の2016年に対向車線への飛び出し事故が71件発生していたのが、設置後は4件(2017年度1件、2018年度3件)へ減少、死亡事故は同7件がゼロになった旨が公表されました。